

## 岡山いきいき子育て応援事業補助金交付事業

補助事業者名：一般社団法人チカク

事業名：健全な子どもの育みを支援する調査および講習の開催について

# テーマ2

## クリニックラウンによるこども理解講座

### まとめ

■ 目的

クリニックラウンやケアリングクラウンとして活躍中の二人の講師から、二日間の講義とワークショップを通じて、子育て支援の現場に役立つコミュニケーションについて学ぶ。

■ 内容

会場：倉敷市男女共同参画センター会議室（後援：倉敷市）

① 1日目 ■2010年3月7日(日) 13:30～16:30

**子育て支援のメンタルケアとファミリーサポートの視点**

子育て支援の現場に求められる、メンタルケアの考え方とファミリーサポートの視点を「ケアリングクラウン」として一座を組んで全国を回る講師から学ぶ。

② 2日目 ■2010年3月21日(祝・日) 13:30～16:30

**すべてのこどもにこども時間を！クラウンに学ぶコミュニケーション**

入院中のこどもたちと関わる臨床道化師「クリニックラウン」の活動の実践例と、道化的発想・行動のワークショップを通じて、コミュニケーションについて理解を深める。

■ コアターゲット

③ 想定したのは、子育て支援センター、児童館、幼稚園・保育園で働くスタッフや、さまざまな子育て支援活動、福祉活動に従事している人。また、将来そのような仕事に尽きたいと思っている学生。

④ RSKラジオや山陽新聞レディアのイベント告知欄で講座を知った何名かの方は、自身の心のありようを探ろうと参加されていた。

⑤ 下記⑥により医療関係者に働きかけは行わなかった。そのほか想定外のニーズの拾い上げのために経済誌（Vision 岡山）にもパブ掲載。

### ■ 目標の達成度

- ⑥ 当初、医療関係者の参加も想定していたが、一般参加者と知識の隔たりがあるため、子育て支援の現場スタッフに絞って、募集の働きかけを行った。
- ⑦ 事前に関係者への根回しやヒアリングを行い、スキルの高い講師が招聘できたが、スケジュールの都合上、二日目が連休の中日で参加しづらい面もあった。
- ⑧ 上記2点があったが、内容的には期待を上回るもので、講師・参加者ともつながりができ、今後の展開が期待できるものと思っている。クラウンによる体を使った表現を伴うワークショップは、一般参加者同士の心の壁を打ち破る力をもっており、それぞれの満足度も高かった。
- ⑨ 学生と大人がいっしょにワークする環境も良かったと思っている。

### ■ 参加者満足度

- ⑩ 非常に満足と答えたのが一日目 70%、二日目 86%。満足と答えた人を合わせると両日とも100%の参加者から、かなり高い評価をいただいたことがわかる。
- ⑪ 一日目は機材の調整がうまく行かず、見ることのできない映像があったこと、スライドの説明が長引き、ワークショップの時間が短めだったため、やや評価が低いように見えるが、子育ての現場からホスピスまで、内容としては非常にインパクトのあるもので、資料Bの参加者の声にその興奮が伺える。
- ⑫ 二日目の講師は時間配分について注意してくれたため、進行としてはよどみなく、テクニックとしてのワークも十分行われ、参加者の満足度も高かった。

### ■ 結果

#### 良かったこと（想定内）

- ⑬ 講師のスキルが非常に高く、実践的でリアルな現場の声を聞くことができた。
- ⑭ こどもだけでなく、他者とのかかわりを考える良い機会となった。

#### 同（想定外）

- ⑮ 福祉関係の講師に直接働きかけたところ学生を連れて参加してくれた。
- ⑯ 心のありようを探る目的で参加した方が、明るい表情で帰っていく様子だった。

#### 悪かったこと（想定内）

- ⑰ 年度末、しかも連休の中日が入った二日間講座のため、参加しにくい。素晴らしい内容なので、もっと多くの方に参加して欲しいという声が上がった。
- ⑱ 認知されている方には伝わるが、一般的にはなじみのない呼称であった。

#### 同（想定外）

- ⑲ 講師のDVDのうち1枚が再生できなかった。

## ■ 来年度実施する内容

- 子育て支援活動や福祉活動のスタッフおよび学生を対象とした講座として継続して実施しながら、高度医療の集積を目指している倉敷の地にも、このようなハートフルなコミュニケーション活動の輪を広めたい。
  - ☆ クラウンキャンプ …… 子育て支援活動スタッフなど支援する側を対象に、2日～3日間程度の連続講座で、最後の日には実際に講師が子育て支援施設などで活動する様子を、実習として体験させるプログラム
  - ☆ 夏休みクラウンキャンプ …… 夏休みの親子体験プログラム
- また、チボリ時代に培った大道芸・サーカスのネットワークを生かし、現在行っている子供向けイベント活動により深みを加え、中心市街地の活性化に努めたいと考えている。
  - ☆ 別に実施しているアンケートでも指摘があるとおり、こどもをつれて安心して遊べる場所が減っている。県内各地の拠点施設を活用し、遊びの提案を通じて、岡山でのこどもの育みの質的向上に貢献したい。

## ■ 担当者所感

- おとなからこどもまで、男女を問わず、多くの人が、生きづらさを感じている現代社会において、閉じがちな心を開くために、非常に有効なワークショップであった。
- 医療や教育の分野にも、活用できる内容であり、これからの時代は、メンタルの面でも高度なサービスを提供できるようにすることが、必要と感じた。
- 個人的には、病気のこどもたちの中にさえ、人の役にたちたい、という欲求があることがいちばんの驚きであったが、それは、人として、非常に根源的な願いのように感じ、厳粛な思いにさせられた。
- 自分をどれだけ開放するか、をテーマに、こどもに戻っていくというワークがあり、そこが十分にできなかったことを悔やむ声が多く、次回はきっちりと行いたいと思った。
- 講師の特性や参加者のスキルを見極めて内容を精査したい。

以上

(添付：当日の様子、参加者の声)

# クリニックラウンによるこども理解講座：

1日目

2010.3.7(日) 13:30~16:30 会場：倉敷市男女共同参画センター

## 子育て支援のメンタルケアとファミリーサポートの視点

子育て支援の現場に求められる、メンタルケアの考え方とファミリーサポートの視点を、「ケアリングクラウン」として一座を組んで全国を回る講師から、学ぶ。

講師：石井裕子（いしいひろこ） NPO 法人日本クリニックラウン協会トレーナー



### いろいろなことを学んで、いろいろな人に会ううちに、自分のスタイルを確立していく…。

そんな、講師の言葉が今日の参加者には、本当にぴったり。集まったのは、子育て支援センターや児童館の職員、主婦、福祉・保育の専門学校 の学生、教師、そしてチカクのスタッフ、総勢 20 名。いろいろな立場・年齢・個性の人たちが笑いながら、そして時にはほろりとしながら、講師の言葉に耳を傾け、そして体を動かして人と向き合い、自分の内面とも向き合うひとときでした。

✓ クリニックラウン協会のトレーナーであり、ケアリングクラウンとして「とんちゃん一座」を組み、世界をまたにかけて活動している講師から、子育て支援の現場や、ホスピス、福祉施設などの現場での体験をスライドで丁寧に紹介していただいたあとは、コミュニケーショントレーニングのワークショップが始まりました。



**自分自身を豊かにする時間を自分で作り出す  
—それは、相手と向き合うために大切なこと。  
変わる力は何歳になってもある。**

人と向き合うことで、自分の内面を探るメンタルトレーニング。たっぷり時間をとったつもりでしたが、あっという間でした。

■ 夫と友人夫婦と一座を組んで活動している。



## クリニックラウンによるこども理解講座：

2日目

2010.3.21(祝・日) 13:30~16:30 会場：倉敷市男女共同参画センター

**すべてのこどもにこども時間を！クラウンに学ぶコミュニケーション**

入院中のこどもたちと関わる道化師、「クリニックラウン」の活動の実践例と、道化的発想・行動のワークショップを通じて、コミュニケーションについて理解を深めます。

講師：塚原成幸（つかはらしげゆき） 日本クリニックラウン協会事務局長兼アーティスティックディレクター



### Nose On-Nose Off (ノーズオン・ノーズオフ)

クリニックラウンは、優れた表現者であると同時に、こどもとの接し方、こどもの心理、保健衛生や病院の規則にも精通したスペシャリスト。本場、オランダでは9割近くの小児医療施設にクリニックラウンが訪問活動を行っているのだそうですが、日

本での活動は少しずつ輪を広げているところ。厳しい審査 を経た 15 人のクリニックラウンが、現在、全国の 15 病院で年間 200 回、延べ 7000 人のこどもたちの笑顔を育てているそうです。

実際の訪問活動の時も、クラウン独特のメーキャップはしません。

赤い鼻をつけると（ノーズオン）、こどもよりこどもらしい「スーパーこども」 に変身し、こどもたちを笑わす...というより、笑われてしまうような存在です。

でも、厳しい日常を生き抜くこどもたちに、笑い飛ばされたり、叱られるような「軽い存在」であることに意味があり、ともに笑いともに泣く、人間的なかわりの中から、こどもたちに笑顔がうまれてくるのだろうと 感じました。



■ ノーズオンすると…。

- 相手が大きく動かす手のひらに自分の手をあわせる。ワークショップは、いくつかの段階を追って、次第に高度になっていく。



## すべてのこどもに、こども時間を！

拍手を受けるのは道化師ではなく、中心はこどもであり、それをささえる家族と医療従事者。病棟で長く治療を続けるこどもたちは、厳しい状況を日常と受け止め、次第にコミュニケーションが大人びてきてしまう傾向があるそうです。



ですから、はじめてクリニックラウンに出会ったときのこどもたちの反応は、ちょっと斜に構えて、「ほかにすることないのー。ひまだねー」。

このクールな反応から、少しずつこどもたちが笑顔になり、こどもと医療関係者の距離も縮まっていく。家族とのコミュニケーションも増えてくるのだそうです。

定期的に病棟に通い遊びとユーモアを届け、数ヶ月～数年というスパンでこどもたちの笑顔を育み関係を築くのが、クリニックラウンの役割です。病気の治療のためにさまざまな制限の中で入院生活をしているこどもたちが、思い切り笑い、主体的に遊ぶことのできる環境を作っていく彼らの活動の一端を、この講義で垣間見ることができました。

## 病棟で、日々、周りの人に助けられているからこそ、こどもたちには、何かを返したい…という気持ちがある。そのタイミングを見逃さない。

ネガティブな環境だからこそ、その状況をさかさまにしてポジティブな発想と笑いを届けるアーティスト。その視線は、こどもたちの「人の役に立ちたい」という思いまですくいあげます。こどもだから…でもなく、病気だから…でもなく、普遍的な人としての「希望」。それを叶える…と説明すると、あまりにも上から目線になりますから、そうではなくて、むしろ、静かに見つめながら明日につなげている、といった印象のお話でした。

講師の話聞きながら、表現者としてのスキルだけでなく、洞察力が必要とされる厳しい現場なのだなと実感し、同時に、そこで暮らすこどもたちのネガティブな感情も、ポジティブな思いもすべて、愛おしいものに思えてくるのでした。

## 楽しさが、打ち上げ花火で終わってはいけない

終了後、塚原先生とスタッフでお話していて、記憶に残ったことばです。楽しませて、楽しませて、終わった後に、病棟のこどもたちに喪失感が残るようではいけない。だから、クリニックラウンの認定試験は、「はじける」ことだけでなく「おさえる」ことも重要な技量のひとつとして、考えられているのだそうです。「定期的に通って関係性を築いく」活動とあわせて、一般に考えられている道化師の役割と大きく違う点だと思いました。

連休の中日を含む二日間の講座という高いハードルを、軽々と飛び越えて、参加して下さった、子育て支援の現場のスタッフの方、福祉の現場で働くことを目指す学生さんたち、ありがとうございました。

## 参加者の声

- どんな人に出会っても分け隔てなくお話できることは、すごいなと、自分を振り返って思った。
- 講義の後半に、子供たちだけではなく、そのお母さんや付き添われている家族の心についてのお話がありました。自分の活動の中にも、そのご指導を生かしていきたいと思います。
- 子育て中の一母親として参加させていただきました。教えていただいたことを経験にも生かせると考えておりましたが、自分自身がとっても元気になりました。子育てにクラウン的要素はとっても必要だと思っておりましたが、なかなか自分が思うとおりにいかず、思い悩んでいたところでした。すてきな言葉をたくさんいただき、本当に参加してよかったです。
- 体験したことをお話してくれたのでよかったです。今日学んだことで職場で生かせることは生かして生きたいと思います。お忙しい中ありがとうございました。
- 人間ひとりひとりにはいろんな可能性があると感じた1日でした。実際に体験されたエピソードが印象強く残っています。
- 全ての事を忘れ、童心に戻ったり、人を信頼することなど気づかされるのがたくさんありました。楽しい時間がすごせました。
- 信頼と信用の違い・・・あるなあとおもいました。どちらも信じると心が落ち着きました。
- 信頼ゲーム。自分は身をゆだねられないのではと思っていたのですが、びっくりするくらいリラックスできた自分に驚きました。
- 信頼ゲームは最初は怖かったのですが、そのうちすべてをゆだねることができ、はじめての感覚です。
- 価値観が同じなら分かり合える…。すばらしいと思いました。人を笑顔にするのに、自分を高めないといけない。大切なことに気づきました。
- 人と人とのふれあい方やその人の気持ちになることが学べた
- 童心に戻ることが難しくもあり、楽しくもありました。笑い顔ではとても面白かったのですが、我慢できず笑ってしまいました。
- もっと時間があればワーク(子どもに戻る)ができたかなと思う。時間が短かった。
- あまりに始めてのことばかりで、なかなか内容についていけなかったかも。歩いたり、面白い顔をしたり、3分話すのも、結構難しかった。でも、新鮮！
- 患者もですが家族もすごく疲れます。日本にも先生方のような活動がもっと増えることを切に望みます。
- 何度も受講したい
- 想像と違ってとても楽しく過ごせることができました。
- 自分を少し知ることができた
- 笑うと楽しさがついてくる。たくさん笑おうと思う。
- 二人組みになってコミュニケーションが取れた。少しの時間でも仲良くなれた気がしました。
- 笑顔があると楽しくなる
- 会話をしなくても相手をわかることができるということを知ることができて、勉強になりました。
- 体験することができて楽しかったです。
- 前回はいまひとつ理解できなかったクリニックラウンのことがとてもよくわかり子供理解にもつながりました。
- ゲームで心が開放され楽しくなりました。病気のこどもたちを楽しませることには興味がありますが、簡単で安易にはできないこともわかりました。
- 今日のスライドの内容にあったこどもや医療スタッフの声がわかったのが良かった
- たくさんたくさん「あ、そうかー」と思いました。悲しいかな、書き留めないと忘れていくことが残念。
- 笑いがあるから楽しい。深いなあと思いました。ワークショップもすごく充実していて楽しかったです。
- もっと時間が欲しいと思えるほど、あっという間に時間が過ぎてしまいました。
- 一日コースで聞きたいと思いました。
- またこのような講座をぜひ受講したいです。
- 最後に先生が言われた「笑顔があるから楽しい」このことを念頭において仕事に、日々の生活において、子供たちと接していきます。
- 会場で流れていた曲もすごく良かったです。
- クリニックラウンについての講演や、旭東病院で行われている赤い鼻のようなことを学校のにも出張公演なんかしていただけたらとてもうれしいです。
- とても楽しい時間をありがとうございました。また参加したいです。たくさんの子どもたちを暖めてあげてください。職場に戻り、私もこどもたちを暖かくしてあげたいと思います。自分も暖かく。